

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大森木材株式会社新城工場 S棟増築工事	階数	地上1F
建設地	愛知県新城市	構造	S造
用途地域	工業地域、22条地域	平均居住人員	10人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,900時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年1月 竣工	評価の実施日	2017年3月2日
敷地面積	16,769 m ²	作成者	丸正建築事務所
建築面積	3,599 m ²	確認日	2017年3月2日
延床面積	3,556 m ²	確認者	丸正建築事務所

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
<p>BEE = 0.7 ★★★★★</p> <p>標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p>	<p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
Q のスコア = 2.8		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.3</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.5</p>

LR のスコア = 2.5		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.5</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.7</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.3</p>

3 重点項目		
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>0.0</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 40.4 % 建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %</p>	
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.0</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料> なし <建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし</p>	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き
大森木材株式会社新城工場 S棟増築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AIC

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
2 アスベスト対策								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
3 衛生管理業務								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性								
2 免震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								
2.4 信頼性								
1 空調・換気設備								
2 給排水・衛生設備								
3 電気設備								
4 機械・配管支持方法								
5 通信・情報設備								
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり								
1 階高のゆとり								
2 空間の形状・自由さ								
3.2 荷重のゆとり								
3.3 設備の更新性								
1 空調配管の更新性								
2 給排水管の更新性								
3 電気配線の更新性								
4 通信配線の更新性								
5 設備機器の更新性								
6 バックアップスペースの確保								

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
	重点項目							
Q3 室外環境(敷地内)								
1 生物環境の保全と創出	独自③		2.0	0.30	-	-	-	2.5
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		2.0	0.50	-	-	-	2.5
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=-	-	0.40	-	-	-	2.5
2 自然エネルギー利用			-	-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化								
集合住宅以外の評価(3a,3b)			-	-	-	-	-	-
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	-	-
4 効率的運用								
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	-	2.5
4.1 モニタリング			2.5	1.00	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	-	-
集合住宅の評価			2.0	0.50	-	-	-	-
4.1 モニタリング			2.0	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル								
1 水資源保護								
1.1 節水			2.2	0.15	-	-	-	2.2
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			1.0	0.40	-	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.60	-	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.67	-	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減								
2.1 材料使用量の削減			2.5	0.63	-	-	-	2.5
2.2 既存建築躯体等の継続使用			2.0	0.07	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-	3.0	0.25	-	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.21	-	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	1.0	0.21	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	-	-	-	-	-	-	-
3.0 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.25	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避								
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない材料を可能な限り使用	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.2 フロン・ハロンの回避			5.0	0.32	-	-	-	-
1 消火剤			3.0	0.68	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)			-	-	-	-	-	-
3 冷媒			3.0	1.00	-	-	-	-
-			-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境								
1 地球温暖化への配慮								
1 地球温暖化への配慮	①	#DIV/0!	-	0.30	-	-	-	2.3
2 地域環境への配慮								
2.1 大気汚染防止			1.9	0.50	-	-	-	1.9
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.25	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			1.0	0.50	-	-	-	-
1 雨水排水負荷低減	独自		2.7	0.25	-	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-
3 交通負荷抑制	独自		3.0	0.25	-	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	-	-
3.0 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮								
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								
1 騒音	独自		2.7	0.50	-	-	-	2.7
2 振動	独自		3.0	0.40	-	-	-	-
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	-	-
3.0 悪臭			3.0	0.33	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								
1 風害の抑制			3.0	0.40	-	-	-	-
2 砂塵の抑制			3.0	0.70	-	-	-	-
3 日照障害の抑制			3.0	-	-	-	-	-
3.0 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	-	-
3.3 光害の抑制								
1 屋外照明及び屋内照明のつち外に漏れる光への対策			1.6	0.20	-	-	-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			1.0	0.70	-	-	-	-
3.0 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	-	-

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

大森木材㈱新城工場 S棟増築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				0.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:40.4%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 大森木材(株)新城工場 S棟

計画上の配慮事項	
総合	周辺地域に配慮し、デザイン、色調等突出しすぎないよう生活環境への配慮を行った。
Q1 室内環境	評価対象外
Q2 サービス性能	ゆとりのある階高、天井高とし、フレキシビリティの向上に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	周辺の土地に配慮した計画とした。
LR1 エネルギー	省電力タイプの機器を選定し、エネルギーの削減を図った。
LR2 資源・マテリアル	人体への健康に配慮した材料を採用した。
LR3 敷地外環境	振動や騒音への配慮を行った。
その他	